【鋳匠（ちゅうしょう）】

大谷善兵衛（おおたにぜんべえ）

【現 住 所】橋本市
【生　　年】大正10年

業績及び経歴

大阪市に生まれ、大谷家に代々伝わる蠟型鋳造技法について、幼少の頃から父親の指導を受ける。昭和23年から現在地に居を移し、これまで50年余りにわたって鋳金に取り組んできた。

蠟型鋳造技法とは、密蠟に松ヤニとパラフィンを混ぜたもので作品の原型を作り、これを真土と呼ばれる粘土で包み、火の中で焼いて蠟を流し出す。この鋳型に溶かした銅と錫の合金を流し込んで、原型と同じ形の作品を造り出すという技法である。

すなわち、一原型一作品というのが蠟型鋳造技法の特徴であり、複雑な形態を鋳造するのに適している。

作品の完成までには永年の経験を必要とするが、なかでも鋳型に溶解した金属を流し込む際は、作品の出来不出来が決定されるため、全神経を集中するという。

作品は花器、水盤、香炉などの小品から、銅像、仏像などの大きなものまで製作している。